

授業科目(ナンバリング)	文学論 (AB109)			担当教員	※青崎 孔		
展開方法	講義	単位数	2単位	開講年次・時期	1年・前期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
本講座では、学びの地である長崎に視点を置き、「長崎の文学」を身近に感じることによって文学そのものの本質を捉え直したい。今回は遠藤周作を中心にその周辺を含めた講義と演習による読解を進めることとする。異文化を受け入れてきた長崎の人と歴史を感じることで、これからの時代を生きる自分自身の内面の醸成を図ることをねらいとする。							①④ ⑤⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	・「長崎の文学」の各作品と自己対峙することで、自分という人間の本質を探ることができる。				・授業態度	10%	
情報収集、分析力	・授業におけるポイントと課題をまとめることができる。				・演習と発表	20%	
コミュニケーション力	・作品の理解に関するディスカッションを通して、課題を解決できる				・グループ討議	10%	
協働・課題解決力	・作品ごとの感想や意見をまとめることができる。				・ミニレポート	10%	
多様性理解力	・長崎という土地が人間にあるいは文学にどのような影響を持ったかを、作品を通して考えることができる。				・期末レポート	50%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> ・期末レポートの成績を50%とする。評価結果についてはポートフォリオでフィードバックする。受講者の発表等については授業内で指示するが、基本的にはグループワークとし、意見の集約と提示を行う。文学的視点が明確であるか、独自の見解を有するかを評価し、授業の中でフィードバックする。 ・ミニレポートについては自らの視点を明確にした内容で書かれているかを評価し、次の授業でフィードバックする。 ・授業態度や授業への参加については授業内の参加度合を評価する。 							
授業の概要							
<p>授業は講義だけでなく、作品の持つ課題などをグループディスカッションするとともに、授業発表によるプレゼンテーションを絡ませることで、一方的な概念や解釈という観点によることなく、受講者自身の感性と思考、あるいは理解を評価の対象とする。これまでの既成の研究や評論、あるいは論文的な作品評価ではなく、純粋に作品の受け取り方、感じ方を大切に考えることができることとする。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：「長崎の文学」、各文庫本 教科書に掲載されていない作品については資料を配布する。</p> <p>参考書：必要に応じて紹介する。</p> <p>指定図書：「長崎の文学」、各文庫本</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>従来の概論的な色合いを避け、「長崎の文学」に特化したことを理解し、積極的に異文化を取り込んできた長崎という地域を理解してほしい。本県出身者でも「灯台下暗し」で本当に郷土の文化や地域、あるいは置かれてきた歴史的な問題などに触れることは少ないといえる。その足と眼と感覚をもって体感する機会を持たれることに期待したい。外海の「遠藤周作文学館」などは必見の余地あり、である。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	イントロダクション	・「長崎の文学」を基点にした「文学論」について、その概要を学ぶ	「長崎の文学」について調べてくる。
2	さだまさし 『二番線ホーム』	・主人公の自己葛藤する姿から人間の生き方を見る。①	・『二番線ホーム』(教科書 P190～P192)を読む。
3	さだまさし 『解夏』①	・主人公の自己葛藤する姿から人間の生き方を見る。②	・『解夏』(教科書 P96～P100)を読む。
4	さだまさし 『解夏』②	・主人公の自己葛藤する姿から人間の生き方を見る。②	・『解夏』(教科書 P96～P100)を読む。
5	吉田修一 『Water』①	・青春期の光と影を読み取る。	・『Water』(教科書 P89～P95)を読む。
6	吉田修一 『Water』②	・青春期の光と影を読み取る。	・『Water』(教科書 P89～P95)を読む。
7	青来有一 『聖水』①	・脱「長崎の文学」に成功した長崎の文学を読む。	・『聖水』(事前配布資料)を読む。
8	青来有一 『聖水』②	・地域性を越えた普遍的人間性を描いた作品に触れ、どのように地域性を脱したのかを読み取る。	・『聖水』(事前配布資料)を読む。
9	青来有一 『聖水』③	・地域性を越えた普遍的人間性を描いた作品に触れ、どのように地域性を脱したのかを読み取る。	・『聖水』(事前配布資料)を読む。
10	評論 「日本文化の内と外」	・日本人の文化の醸成に関わる内面や思想を知る。	・日本文化論について調べてくる。
11	遠藤周作 『海と毒薬』①	<ul style="list-style-type: none"> ・遠藤周作の「三部作」を読む。 この三つの作品で遠藤周作は「日本人はいかなる人間なのか」という問いに対して、キリスト教といった宗教を材料に用いながら、日本人の思想・深層心理に迫っている。その足跡を辿ることで、これまで分析してきた「長崎の文学」を「文学論」として総括する。 	・『海と毒薬』(事前配布資料)を読む。
12	遠藤周作 『海と毒薬』②		・『海と毒薬』(事前配布資料)を読む。
13	遠藤周作 『沈黙』①		・『沈黙』(教科書 P20～P26)を読む。
14	遠藤周作 『沈黙』②		・『沈黙』(教科書 P20～P26)を読む。
15	遠藤周作『沈黙』③ と文学論の総括		・『沈黙』(教科書 P20～P26)を読む。